

ブルネイ ダルサラーム国訪問記

一般社団法人 日本食品包装協会
副理事長 小國 盛稔

1. 訪問のきっかけ

昨年 10 月 21 日、石谷理事長及び廣瀬事務局長と一緒に、ザ・ペニンシュラ東京でブルネイ ダルサラーム国首相府エネルギー・産業省 Yasmin Umar 大臣と面談し、同国の「食品包装へのアドバイス」を依頼されました。当初は、話だけだと思っていましたが、12 月に入ってから、同国大使館から石谷理事長宛てに「2018 年 1 月に同国訪問の要請」があり、私も石谷理事長に同行する事になりました。

ブルネイ ダルサラーム国では、2018 年 1 月 16-18 日の 3 日間、当協会と日本包装技術協会から講師を招聘して「Packaging Workshop for MSMEs」を開催し、同国の食品産業の国際レベル化を図りたいと考えていたようです。

2. ブルネイ ダルサラーム国とはどのような国か？

どこにあるのか？どのような国なのか？ご存じない方が大半ですので、簡単に説明しますと、ブルネイ ダルサラーム国は「ボルネオ島の一角に存在する王国」です。そして、国土はかつての領土争いで東と西に分割され、マレーシア領の中にある（マレーシア領に挟まれている）とも云えます。



- ① 首都はバンドル・スリ・ブガワン
- ② 面積は 5,765 平方キロメートル（三重県とほぼ同じ）
- ③ 人口は 42.3 万人（2016 年）

民族はマレー系 66%、中華系 10%、その他 24%（2016 年、出典：ブルネイ首相府）、言語は憲法で公用語はマレー語と定められているが、英語は広く通用し、華人の間では中国語もある程度用いられている

- ④ 宗教はイスラム教が国教で、ボルキア現国王が第 29 代スルタンとして宗教上の権威であり、イスラム教徒の全国民に占める比率は 78.8%、その他、仏教徒 8.7%、キリ



スト教徒 7.8%、その他 4.7%です。

- ⑤ 政治は立憲君主制ですが、ハサナル・ボルキア国王が国政全般を掌握（国王が首相、国防相、財務相及び外務貿易相を兼任）しており、「マレー主義に立つ、イスラムの王政の維持（MIB : Melayu, Islam, Beraja）」を国是としています。

また、2014年5月からシャリア刑法（イスラム法とも云われ、コーランと預言者ムハンマドの言行（スンナ）を法源とする法律）を段階的に施行しています。

- ⑥ 経済は石油と天然ガスが産出することから、東南アジアではシンガポールに次いで高い経済水準にありますが、資源価格（特に、原油価格）により経済成長が大きく左右される為、ブルネイ政府は、2006年からエネルギー資源輸出への過度の依存から脱却すべく、石油「川下」産業の開発を含めた経済の多様化を目指してきました。

しかしながら、経済成長率は2014年以降、マイナス成長率が続き、現在もその状況が継続している為、ブルネイ政府は国家予算を縮小せざるを得ず、その影響が等各方面に出ています。

その解決の為に、ブルネイ政府は石油・天然ガス関連以外の産業に力を入れる方を打ち出し、ブルネイ産品の輸出を奨励して、「一村一品」運動を展開しています。

今回の「Packaging Workshop for MSMEs」の開催もその一環だと思われ
ます。

- ⑦ 社会環境は治安が良く、社会福祉は充実しています。例えば、ブルネイ国民であれば、原則、医療費（公立病院）や教育費（公立学校）は無料、個人の所得税もかかりません。

- ⑧ 自然環境は国土の約6割が熱帯雨林で、空気や水が清浄で、自然災害が少なく、豊かな観光資源を有しています。

観光名所（残念ながら、私は時間が無かったので、観光が出来ませんでした）としては、世界最大の水上集落、世界最大級の王宮・旧モスクおよび新モスクなどの美しい建造物があり、多くの観光客を魅了すると云われています。

3. 「Packaging Workshop for MSMEs」の内容

「Packaging Workshop for MSMEs」即ち「中小企業向け包装ワークショップ」は、3日間の日程で開催されました。

【1日目】

午前 ブルネイ政府関係省庁から中小企業支援に関するの現状説明

- ① ブルネイ政府の MSME 支援の概要説明
 - 1) 政府機関との JFPA と JPI の打合せに関して
 - 2) 企業面談に関して
- ② 「ブルネイダルサラームのビジネス環境」(Darussalam Enterprise (DARe))
- ③ ブルネイにおける農業・農林業の表示要件（一次資源・観光省）
- ④ 栄養情報（科学研究サービス）



- ⑤ ブルネイでのハラール認証（宗教省ハラール食品管理部）
- ⑥ 国際基準への認識（首相室エネルギー産業部国家標準センター）
- ⑦ 「輸出用包装」（Ghanim International Corporation Sdn. Bhd.）

午後 ブルネイ中小企業への「包装」に関するコンサルティング

- ① eri Pekatan Sdn Bhd（魚とエビクラッカー）
- ② ベリアルエンタープライズ（健康と美容製品）
- ③ One Village One Product Tungku / Katok（Stingless Bee Honey）

*Stingless Bee：ハリナシミツバチ

ハリナシミツバチ類は熱帯・亜熱帯地域の樹林地に生息し、その地における様々な樹脂（resin）を大量に採取します。ただし、これらの樹脂は病菌微生物に対する機能性（すなわち 抗菌性、あるいは予防性）等を個々に有している樹（樹脂源植物）からのものに限られます。この樹脂と彼ら自身が分泌する蜜蝋（bees wax）との混合物はプロポリス（propolis）と呼ばれ、彼らの巣材（hive）となります。すなわち、彼らは薬でできた家に棲んでいるとも言えるのです。

- ④ One Village One Product Masjid Lama（エビクラッカー）

【2日目】

午前 サプライヤーへの訪問

- ① Wan Sing Sdn Bhd（プラスチックおよび紙使い捨て製品のサプライヤー）
- ② A-Fontane Sdn Bhd
（食品包装、ホテル、レストラン、ケータリング部門のサプライヤー）
- ③ D-Con（商品や法人の贈答品の卸売業者）

午後 出席者：F&B 業界の MSME、現地梱包業者、関連政府機関

2日目の第1セッションと第2セッションは日本食品包装協会が担当

第1セッション：日本における食品産業

食品製造工程から包装まで

高水分食品の包装

第2セッション：包装材料と包装食品

中間水分食品

乾燥食品

包装コンサルティング:

- ① Maizatul OMAR（PET ボトルに入れて 3 日しか日持ちをしない天然 100%果汁を日持ちさせたいが方法はないか？）
- ② Adh (Sgarikat Wira BINA)
（ココナツ油を日本で販売しようとしてが、凝固してしまった。防ぐ方法はないか？）



- ③ Good food company (Hj MOHAMAD)
(ドライフルーツとフルーツソースの詰合せを日本で販売したい。アドバイスを欲しい)
- ④ Garden Cookies (Hajah Zainab ALI)
(パイナップルタルトやフルーツケーキを日本で売りたいが、日本の若者が好むデザインを教えて欲しい)

【3日目】

午後 出席者：F&B 業界の MSME、現地梱包業者、関連政府機関

第 1 セッション～第 4 セッションは日本包装技術協会が担当、第 5 セッションは地元のコンサルティング会社が担当

第 1 セッション：包装における情報技術、新技術の利用と国際標準化の動き

TC122 の活動 (ビジネスプラン)

アクティブ/インテリジェント包装事例紹介

RFID (WG12)、WG13, 14 をはじめとする情報化社会への対応

日本の状況と国際標準化

第 2 セッション：国際市場における包装のトレンドと事例

IoT, 3D, ディスプレイ包装、緩衝包装、包装材料 (バイオ) 国

際市場向け包装技術例：食品海産物輸送包装 (輸出)

第 3 セッション：日本における最新包装 (食品以外の商業包装) のトレンドと事例

包装の 3R,

環境配慮設計最新事例と国際標準化の動き

(開発経緯と概要、今後の動き)

usability

最新事例と国際標準化の状況 (現在の規格紹介)

その他事例紹介

第 4 セッション：東京パック 2016 の状況と 2018 の企画紹介

2016 年の結果紹介、パッケージングコンテスト優秀商品紹介

2018 年の概要と PR

第 5 セッション：ブランドとデザインの重要性

包装コンサルテーション:

- ① Madu Maanggaris (はちみつの日本での販売する為のアドバイスを希望)
- ② Judh Al Aswad A scent of paradise (Adi Mardi AJMAIN)
(バラから抽出した油をビン詰にして、紙カートンに入れて輸出したいが、包装に関するアドバイスを希望)
- ③ ? (石鹸をストレッチ包装して販売したい。ストレッチ包装機を紹介して欲しい)



④ 2WENTY5IVE coffee collaboration consultation

(水抽出コーヒーを PET ボトルに入れたいが、アドバイスを欲しい)

「Packaging Workshop for MSMEs」を終えての感想は、連日 100 人以上の聴講者が集まり、私達の講演を真剣に聞いて下さり、講演後の「包装コンサルテーション」は行列ができ、相談時間「1 組 15 分」では終わらず、係員に中止を指示される組もある位、相談したい人が沢山いらっしゃいました。

ブルネイには、実際、包装に関する問題および流通に関する問題は沢山あるように思われますし、それを解決する為のアドバイスをする技術者が不足している様に見えました。

確かに、包装材料販売店を訪問して、話を聞きしましたが、殆どの包装材料がインドネシアやマレーシアからの輸入で、デザイン中心に包装材料を販売しており、包装材料の機能に関しては知識が無いように見えました。

また、ブルネイの人々が石油と天然ガス輸出に頼り切っている現状から、日本の大分県大山町から始まった「一村一品運動」を「One Village One Product movement」として取り入れ、「同国産品の輸出促進を図っている状況」が隔々まで行き渡っている事が良く分かりました。首都バンドル・スリ・ブガワン近辺の村を訪問し、4 件の家に招かれましたが、その一軒一軒の家が「販売する食品（例えば、はちみつ、クッキー、クレープの皮、を作り、それを包装して販売しよう）」としていました。そして、その為にアドバイスを私達に求めてきました。

現在、One Village One Product movement で作られた製品は、バンドル・スリ・ブガワン空港内免税店で販売されています。



写真 1.家庭で作られている包装食品（クレープの皮）



写真 2. バンドル・スリ・ブガワン空港内免税店で見られた One Village One Product movement

4. ブルネイの包装事情

ブルネイのスーパーマーケット(宿泊していたホテルに接続して地上 4 階地下 1 階のショッピングモールがあり、地下がスーパーマーケットでした。食品・化粧品・洗剤・日用雑貨等、あらゆる物があり、品揃えが豊富でした。買い物客も沢山入っており、日本のスーパーマーケットと比べて、何等変わりありませんでした。



写真 3. 宿泊していたホテル

The Rizqun International Hotel



写真 4. ホテルに接続する
ショッピングモール。この地
にスーパーマーケットがある

商品を見てみると、フレキシブルパウチ、プラスチック容器（成形容器及びチューブを含む）に包装された食品、洗剤、シャンプー・リンス等が並び、日本のスーパーマーケットと比べて遜色が見られませんでした。

しかしながら、殆どが、マレーシア産、インドネシア産、ドバイ産との表示があり、ブルネイ産は極めて少なく、ブルネイは食料輸入に頼っている事が一目瞭然でした。

また、それ等の製品に使われている包装材料は、使用されている包装材料の材質構成がわからない為、内容品の保護機能は不明でありましたが、一見したところ、包装適性には問題ない（置かれている棚を見ると、内容物の漏えい・包装材料の損傷は見られなかった）と思われました。

包装材料を外見から見たのですが、次の点に気が付きました。

- ① 印刷外観も良い。（印刷ズレが無い、アイマーク無し印刷、艶消し印刷の利用、蒸着フィルムの効果的使用、図柄に多様化等）、
- ② 包装材料の機能としては、チャック付きスタンディングパウチ、詰め替え包装等もあり、レベル的には日本国内で使用されている包装材料との差は見られなかった。

また、「Packaging Workshop for MSMEs」で、個別相談を受けていると、相談者は食品産業従事者が多く、「味が変わるので、加熱しないで、生のまま保存したい」との希望が多くありました。日本ならば、当然、「保存の為に加熱をしても、味が変わらないようにするにはどうすべきか？輸出するならば、どの程度の品質保証期間を設けなければならないのか？その為に、包装材料をどうしたら良いのか？」を考え、そして打ち手を考え、成功させるでしょう。

しかしながら、彼らには「内容物の保存に対する知識」が乏しく、「包装材料に対する知識」は殆どない為、自分達の製品を拡販する事が出来ない状況にあります。



可能ならば、今後、「包装材料と食品保存方法に関する知識の伝授」を行えば、ブルネイ産食品加工品の海外輸出も可能だと考えます。

包装材料のブルネイ生産に関しては、不明な点が多く、包装材料代理店 2 社の話では「1-2 色印刷は行っている」との話を聞きましたが、殆どが輸入との事でした。確かに、人口 40 万人の国での包装材料需要は僅かであるので、致し方ないとも思えます。

包装材料は ①内容物の保護的性を考えた包装材料の材質・構成の選定 ②機能・便利性の付与 ③印刷デザインの選定等を考えると、国外からの輸入は意思疎通の観点から考えて無理が多く、ブルネイ国内での包装産業の成長が必要と考えます。まして、今後、輸出を推進していくならば、包装材料の国内生産は不可欠だと考えます。